



つながる家と庭  
The House  
connected by a garden

04 ダイニングから庭までつながる土間

ダイニングから土間、半屋外のデッキまで段差なしに繋がることで、家の外と中が連続する構成になっている。料理をする母、庭で園芸をする父と畳コーナーで遊ぶ子供たちはそれぞれ別のことをしながらもお互いにゆるくつながっている。



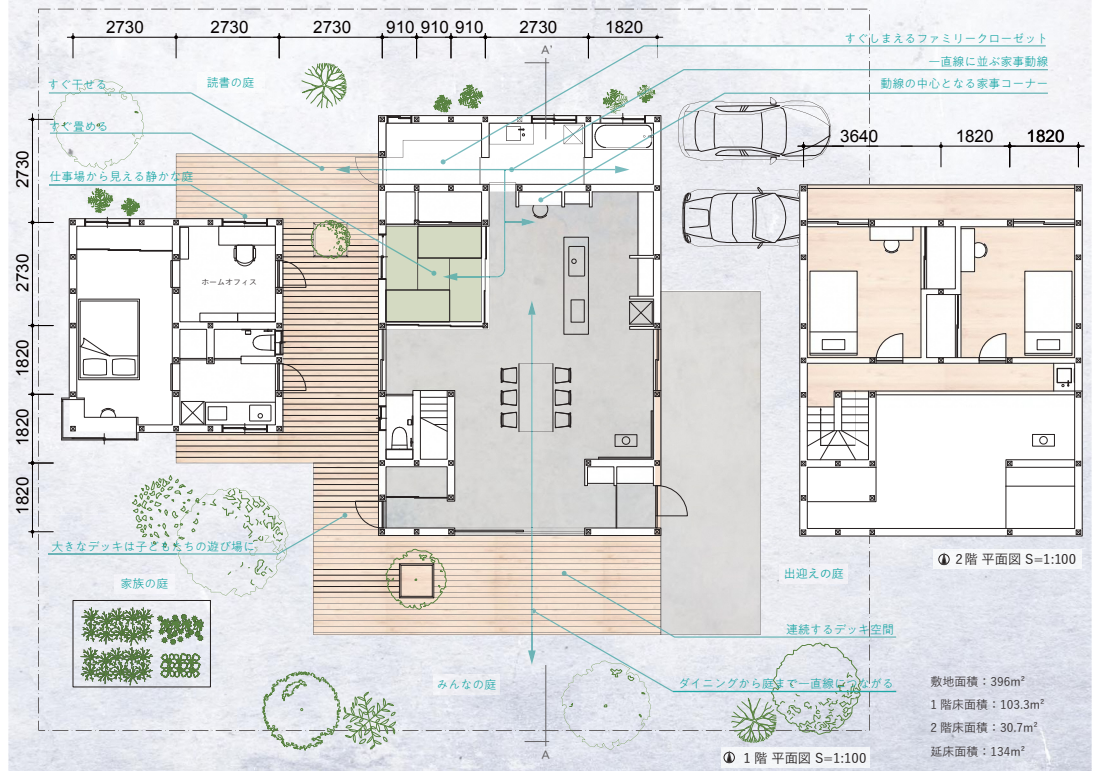
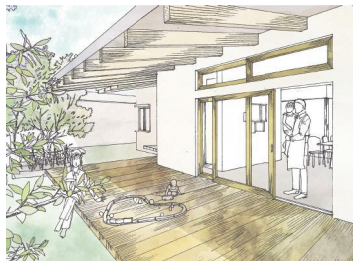
05 子育てを楽しむ短い家事動線

洗濯スペースから、ファミリーローゼット、干し場までが一直線に並んだ使いやすい動線をとっており、取り込んだ洗濯物は畳エリアで畳んでファミリーローゼットにすぐに入られる最短家事動線で忙しい両親も子供との時間を確保。



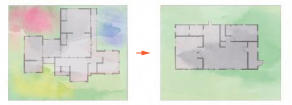
06 今と老後を楽しむ2つの屋根

離れは家族のステップに合わせた様々な使い方が出来る。子育てが終われば2階はゲストルームになり夫婦の生活は1階で生活は完結する。広い家に住むのがつらくなり畳スペースに布団を敷くようになれば離れは貸し出すこともできる。



01 今と昔の家と庭

伝統的な日本の住宅は複数の箱をつなげた形として現れ、庭は建物と等価に扱われてきた。しかし、最近では大きな箱を区切って部屋を作り、余ったところが庭となるような家が増え、庭の魅力は激減していった。

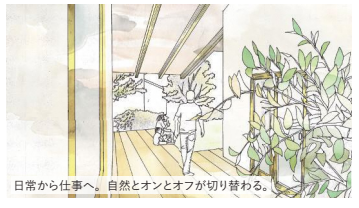


02 小さな家を作る豊かな庭

家を生活の基盤となる母屋と、生活を支える下屋に分割し、それぞれを個別に作って組み合わせ、庭との関係を考えながらつなげる計画とする。これにより、敷地に多様な余白が生まれ、余白は豊かな庭となり周囲の環境とつながる力を持つ。性質の違う3つの庭が生活を彩る。

03 子育てと仕事を切り替える離れ

奥さんが家いる間は静かな庭に面するホームオフィスで落ち着いて仕事、奥さんが買い物に行っている間は賑わいの庭で遊ぶ子供たちを見守りながら仕事し、中間領域のデッキを超えて母屋に入るとき「サラリーマン」から「お父さん」に気持ち自然と切り替わる。



日常から仕事へ。自然とオンとオフが切り替わる。

